

学校だより

学校だより7月号

令和5年6月30日

発行者 外日角小学校

TEL 283-0040

いよいよ7月 1学期もあとわずかです！


校長 板井 雅春

7月のよく知られた和名として「文月（ふみづき）」があります。これは旧暦の7月、今の暦でおおよそ8月を表しています。語源には色々な説がありますが、その中の一つに、稲の穂が実る頃という意味の「穂含月（ほふみづき）」が転じて「文月」になったという説があります。さらには、むかし七夕に書物を干す行事があって書物(文)をひらく(披く)という意味から、「文披月(ふみひろげづき)」と呼ばれるようになり、それが「文月」になったという説もあるようです。


いよいよ7月です。1学期もあとわずかとなり、学習のまとめに入ります。引き続き、保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

さて、1998年に刊行された著書「子どもが育つ魔法の言葉」(PHP文庫：ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著：石井千春訳)の冒頭に書かれている詩を紹介します。この詩は、2005年2月、天皇陛下(当時：皇太子殿下)が誕生日の記者会見にて、子育て中に感銘を受けたとして紹介された詩でもあります。

「子は親の鏡」



けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



本当に魔法の言葉があればいいなと思います。それは私たち大人が少しずつ見つけていかなければならないのではないのでしょうか。上の詩の1つでも2つでも心にとめて子どもたちに接していけば、それが「子どもが育つ魔法の言葉」になると思いますが、いかがでしょうか。